

研究計画書

(様式 1)

研究課題申請日	西暦 2024 年 7 月 30 日
申請代表者 (研究代表者)	氏名：山本 潤 (連絡先 TEL： / E-mail：)
研究組織	研究 I (免許取得 15 年目)
研究課題名	高次脳機能障害による着衣障害の臨床的実態（障害特性と作業療法のかかわり）に関する作業療法士への調査研究
研究事業 予定期間	西暦 2024 年 10 月 1 日 から 2026 年 3 月 31 日まで
研究組織	① 研究代表者 氏名：山本 潤 所属機関及び法人名： 所属部署： 所属住所： 所属電話番号： OT 会員番号： ② 研究分担者 氏名：早川 裕子 所属機関及び法人名： 所属部署： 所属住所： 所属電話番号： OT 会員番号： ③ 研究分担者 氏名：北島 栄二 所属機関及び法人名： 所属部署： 所属住所： 所属電話番号： OT 会員番号： ④ 研究分担者 氏名：富永 渉 所属機関及び法人名： 所属部署： 所属住所： 所属電話番号： OT 会員番号： ⑤ 研究分担者 氏名：前田 眞治 所属機関及び法人名： 所属部署： 所属住所：

	所属電話番号： 職種：
研究・実践の 概要 (目的・必要性・特色・独創的な点)	本研究の概要 (図 1) 本研究は、<u>高次脳機能障害による着衣障害（以下、着衣障害）に関する研究</u>である。着衣の障害は着衣失行（dressing apraxia）をはじめ、他の高次脳機能障害の二次的症状として出現する場合を合わせて着衣障害（dressing disability）と提唱される（内田ら: 臨床リハ, 2008）。この着衣障害は、既報告が少なく、多様な高次脳機能障害が影響しエラー内容も多岐にわたることから、どのようなエラーが存在するのか、また各々のエラーの発現要因や脳機能との関連性などの<u>障害特性は明らかでなく</u>、現在も議論の中にある（山本:神経心理学, 2023）。 作業療法の臨床現場では、<u>上肢機能訓練に次いで、着衣動作訓練に時間が割かれている</u>（Nancy et al: AJOT, 2006）という報告がある。つまり、着衣障害の障害像が明確でないまま動作訓練を行い、そのために、訓練に長時間を費やさざるを得なくなっている可能性がある。特に高次脳機能障害の影響による着衣障害については、多くの作業療法士が悩みながら評価・治療を行っている（作業療法のかかわり）ことが推測される。 まとめると、<u>着衣障害の障害特性とその評価・治療介入が明らかでないことが課題</u>といえる。 そこで本研究では、<u>着衣障害の障害内容と評価・治療介入</u>などに関する情報といった<u>臨床の実態</u>について、<u>作業療法士を対象にアンケート調査</u>を実施し、<u>着衣障害の臨床の実態をまとめる</u>ことを目的とする。 本研究の期待される成果として、<u>着衣障害の障害特性と着衣障害に対する作業療法のかかわりが解明される</u>。さらには<u>着衣障害の臨床の実態をまとめることができ</u>、将来的には、<u>効率的かつ効果的な作業療法実践の実現が期待される</u>。加えて、高次脳機能障害を対象とし生活動作の支援を担う作業療法士の専門性とその価値を高めることにも繋がる。

図 1 本研究の概要

目的

本研究では、高次脳機能障害による着衣障害の臨床的実態（障害特性と作業療法のかかわり）を明らかにすることを目的とする。

＜本研究で使用する用語の定義＞

※着衣障害：着衣失行と他の高次脳機能障害（注意障害や USN など）によって着衣困難となった障害。運動麻痺など神経学的症状に起因する場合や着衣に関する正しい応答が得られない言語理解障害を有する場合は含めない。ただし、着衣に影響を与えない神経学的症状や言語理解障害はあっても良い。

※臨床的実態：本研究では①脳損傷部位、合併する神経心理学的症状、着衣の誤りの内容に関する障害特性と、②評価、治療期間、治療内容などの作業療法のかかわりを指す。

必要性

予備調査として、我々は医学中央雑誌 Web 版で 1984 年～2024 年の期間で着衣障害（失行）を検索した結果（アクセス日:2024 年 7 月 3 日）、着衣障害（失行）は 85 件が該当した。一方で、他の代表的な高次脳機能障害の検索結果は、注意障害 596 件、半側空間無視 898 件、構成失行・障害 275

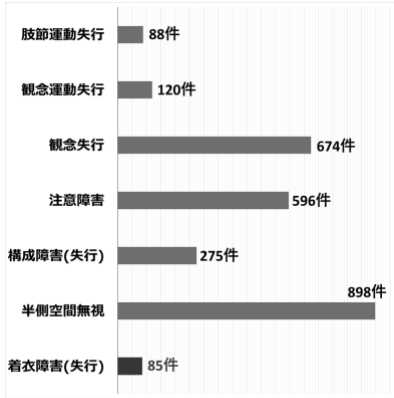


図1 医学中央雑誌Web版で[原著論文]で検索した各高次脳機能障害の検索数

	件、観念運動失行 120 件、観念失行 674 件、肢節運動失行 88 件であった。予備調査の結果から、<u>着衣障害の報告は、他の高次脳機能障害に比べると少ない</u>障害の一つであることが首肯される結果を得た（図 1）。さらに、作業療法の治療時間に関しては、着衣動作訓練が 2 番目に多く費やしている（Nancy et al.:2006）。つまり、既報告が少なく、作業療法の治療に時間を割いている「<u>着衣</u>」に<u>着眼した研究を実施することは、臨床現場での作業療法にとって必要性が高い</u>と考えられる。 特色 作業療法士を対象に<u>アンケート調査を用いて、着衣障害に関する情報を収集する方法</u>は、過去に報告がなく<u>新規性を有する</u>。これまで着衣障害（失行）の既報告が少ないことから、障害そのものの発生あるいは発見率が低い可能性が理由として考えられる。しかし、前述のとおり、着衣動作訓練には多くの時間をかけているという報告を踏まえれば、潜在的には着衣障害例を臨床で経験していても学会や論文として報告されなかった例が存在する可能性がある。よって、アンケート調査を採用することは、作業療法士が臨床の中で経験したが、報告に至らなかった症例の情報を収集できると予想される。よって、本研究の手法である作業療法士に対して臨床経験をアンケート調査によりデータを収集することは、<u>着衣障害に関して多数のデータを取り扱う mass study が実現できる点</u>が本研究の特色である。 独創的な点 これまで申請者は、10 年以上着衣障害に関する研究に従事してきた。その中で、病巣部位、合併する神経心理学的症状、エラー（誤り）の生じる着衣工程、エラー（誤り）の質的内容の関連性が明らかでない点が指摘されている（近藤:神経心理, 2023, 山本:神経心理, 2023）。またその評価や治療介入についても同様である。これらの<u>明らかにされていない課題に関する情報を収集できるよう加味したアンケート項目を作成</u>している点は独創的な点といえる。 また、本研究はアンケート調査を用い、情報を得る対象を作業療法士とする。高次脳機能障害や生活障害にかかわる専門職である作業療法士の視点から着衣障害の情報を得ることは他の職種にはない、より専門的な視点での情報を収集できると考えられる。さらに作業療法士の臨床から得た情報は、本研究の結果を通じて、<u>さまざまな作業療法士の臨床経験を共有すること</u>にも繋がる点は独創的な点である。
期待される成果	期待される成果として、次の 3 点が挙げられる。 1. 着衣障害の障害特性の解明：診断名、損傷部位、合併する神経心理学的症状などと着衣障害のエラー（誤り）の内容との関連性をまとめることで

	障害特性が解明される。 2. 着衣障害に対する作業療法のかかわりの解明：用いた評価、治療介入内容、治療期間、経過などの情報を得ることで作業療法の内容を明らかにすることができる。 3. 着衣障害の臨床的実態をまとめられる：上記 1, 2 に示す障害特性と作業療法のかかわりの知見を踏まえて、臨床的実態をまとめることができる。これが、これまで多くの時間が割かれていた着衣動作訓練に関して、効率的・効果的な問題抽出と治療介入の検討を行うための一助になると期待される。 4. 学術的貢献と将来展望：本研究で得た着衣障害の知見を学術的に報告することは作業療法や高次脳機能障害の発展に寄与する。また作業療法士を対象とし、着衣障害の臨床的実態をまとめることは、社会発信によって多数の作業療法士の臨床経験を共有することになる。つまりは、生活動作の支援に携わり、高次脳機能障害を対象とする作業療法士の専門性とその価値を高めることにも繋がる。
研究計画・方法	対象 対象：神奈川県内の「脳血管疾患等リハビリテーション料」を算定している 184 施設に在籍する作業療法士 1,362 名 選定方法：＜検索日 2024 年 7 月 16 日＞ ① 日本作業療法士協会ポータルサイトにある「会員所属施設名簿」の頁で、「都道府県：神奈川県」、「施設属性：医療関連」から検索（317 件が該当） ② ①で検索し得た施設から「脳血管疾患等リハビリテーション料」を算定している施設をさらに絞り込み検索（184 施設が該当）。 ③ ①②で検索し得た施設に在籍する作業療法士を対象とする（1362 名）。 ※なお、対象選定の手続きにあたっては、日本作業療法士協会に「会員所属施設名簿」の使用に関して許可を得てから送付を行う。 ＜「神奈川県」に焦点を当てたことについて＞ ①回答率の向上：本研究の組織体制が、神奈川県作業療法士会に所属する作業療法士が中心（5 名中 4 名）であったことから、本研究の意義の理解と協力を得られやすいため。 ②サンプルサイズの適切性：アンケート調査の回答率は、20～30%程度であると示されている（Fan W., et al.: Computers in Human Behavior,2010、Kaplowitz MD., et al.: Public Opinion Quarterly, 2004）。神奈川県内の「脳血管疾患等リハビリテーション料」を算定している施設に在籍する作業療法士

	1,362 名を対象とした場合、予想回答数を算出すると次のようになる。 (サンプルサイズ) $1362 \times (\text{回答率}) 0.25 = (\text{予想回答数}) 340$ さらに、母集団サイズ (N) 1362 名、母比率 0.5、許容誤差 0.05、信頼度係数 1.96 と設定すると、<u>必要サンプル数は約 300 名と算出される</u>。予想回答数と比較し、予想回答数が必要サンプル数を超えるため、<u>目標対象数を 340 名と決定</u>でき、本研究で採用する対象が妥当であると考えられる。 方法 「高次脳機能障害による着衣障害の臨床的実態」に関するアンケート調査を実施する。アンケート運用は、Google form を利用したオンラインアンケート調査とする。 なお、本研究に関して、国際医療福祉大学倫理審査委員会の承認を得てから実施する（現在申請中）。 <アンケートの回答率を向上させるための施策> 本研究では、以下の 1～5 の施策を行い、アンケートの回答率向上を図る。 1. アンケートの設計：回答に要する時間を最小限となるよう質問数を最小とし、質問内容を簡易な内容となるよう考慮する。 2. 回答の匿名性：アンケート回答は全て匿名で行うことを保証し、個人情報の保護に努める。 3. プライバシーポリシーの明示：プライバシーポリシーを明確に示し、収集したデータの取り扱いについて透明性を確保する。 4. アンケートの利便性向上：パソコン、スマートフォン、タブレットなど様々なデバイスから回答できるようにし、利便性を高める。 5. 回答サポートの提供：回答に関する質問や問題に迅速に対応できる窓口を設置し、回答者が安心して調査に参加できるよう環境を整える。 <統計解析> ・本研究の統計解析には、統計ソフトウェア SPSS ver.26 もしくは R を使用する。 ・各設問を単純集計（Grand Total 表）から傾向を算出する。 ・各設問の回答の割合やパターンから、クロス集計分析を行い、回答の平均値と標準偏差を算出し、カイ二乗検定を用いて検定する。また、記述統計で集計し、着衣動作における特定の工程での問題の傾向を分析する。 ・質問ごとに統計的に有意な関連性や傾向を分析し、各項目の結果を解釈する。 アンケート内容 次の 3 項目から構成されている。
--	---

	1. 回答者情報 ※個人を特定される情報は含まない →臨床経験年数、所属施設の領域、着衣障害例の経験の有無など 2. 経験した着衣障害例に関する情報 →原疾患、損傷部位、合併する神経心理学的症状、着衣障害のエラー（誤り）内容、評価方法、治療、介入内容、介入期間など 3. さいごに ※回答者の要望など →着衣障害について提案してほしいこと、など 研究計画・役割 以下の図 3 に示すような研究計画で進めることとする。現在、既に研究準備を開始しているため、助成採択後は速やかに研究実施が可能であり、本研究の実現可能性は高い。 図 3 本研究の流れ 研究準備：現在、アンケートを作成し、同時に倫理審査に必要な書類を作成し、申請準備を行っている。 研究実施：2024 年 10 月下旬頃に対象施設へ本研究のご依頼に関する書類を郵送する。 アンケート回答期間は 2024 年 10 月下旬～2024 年 12 月 31 日までとする。2025 年 1 月以降は回答内容をデータ分析していく。 社会発信：2025 年 2 月～学会発表に伴い演題登録の準備を進める。また 11 月の日本作業療法学会での発表を目指す。学会参加終了後は、12 月から論文執筆を行い、2025 年度内（2026 年 3 月迄）には初稿を済ませる。 <手順> ①倫理審査委員会に申請し、本研究における承認を得る（現在申請中）。 ①対象施設に向けて、アンケート調査への依頼状ならびにアンケート回答のアクセス先情報を送付する（2024 年 10 月下旬）。 ②対象施設に在籍する作業療法士からオンライン回答（Google form）にて
--	--

	回収する。 ③回収したデータを表計算ソフト（Microsoft 社 Microsoft Excel）にて整理する。なお、個人が特定される情報は対象外とする。 ④回収期間を 2024 年 12 月 31 日とし、その後、全データを統合・整理して分析する。 ●研究の実現性：既にアンケート内容は概ね完成されており、予備研究として、対象に含まれない作業療法士を対象にアンケートの試用を行い、必要な情報が収集できることを確認している。よって、<u>助成採択後は速やかに研究を実施するための準備は整っている</u>。 ●助成の必要性：本研究は神奈川県内の作業療法士を対象としているため、同県士会の助成制度に採択されることで、一層、周知される研究となり回答率の向上にも寄与するものとする。また本研究を実現するために、アンケート案内送付の資金が必要不可欠である。以上より、<u>本助成の必要性がある研究</u>である。 ●役割について 本研究組織は、以下のような役割をもって取り組んでいく（表 1）。 <table><caption>表 1 本研究の役割分担</caption><tr><th>項目</th><th>山本</th><th>早川</th><th>北島</th><th>富永</th><th>前田</th></tr><tr><td>研究総括</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>研究デザイン</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>データ収集</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>解析方法の選定</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>データ分析</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr><tr><td>考察</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td></tr></table>	項目	山本	早川	北島	富永	前田	研究総括	○					研究デザイン	○	○			○	データ収集	○	○	○	○		解析方法の選定	○		○	○		データ分析	○	○	○	○	○	考察	○	○			○
項目	山本	早川	北島	富永	前田																																						
研究総括	○																																										
研究デザイン	○	○			○																																						
データ収集	○	○	○	○																																							
解析方法の選定	○		○	○																																							
データ分析	○	○	○	○	○																																						
考察	○	○			○																																						
倫理面への配慮	国際医療福祉大学の倫理審査委員会の倫理審査の承認を得るため、現在申請中である。 データ管理について 本研究で得られたデータは国際医療福祉大学小田原保健医療学部作業療法学科に一括管理し、鍵のかかる場所に保管する。またデータ分析のためにダウンロードした電子データに関しては、暗証化付き USB メモリなどの記録媒体を使用し、さらに申請者の鍵のかかるロッカーで厳重に保管することでデータの漏洩を防ぐ。 個人情報保護について 本アンケートは無記名での回答となるため、個人情報が特定される情報																																										

	を収集することはない。ただし、回答内容によっては、特定されるものが含まれていると判断された場合は、速やかに該当する回答者の回答全てを破棄する。
申請者の 研究発表業績	研究代表者（山本潤） は、これまで着衣障害の研究に従事し、一昨年はシンポジストとして招待講演にも登壇した(第 46 回日本神経心理学会学術集会)。また臨床神経心理士の認定（認定番号 01-22172）を取得し、日本高次脳機能学会の代議員にも拝命され、高次脳機能障害関連の活動に精力的に取り組んでいる。 <学術論文・総説・その他> 1.山本潤: 行為・動作機構、空間認知機構からみた着衣障害. 神心理, 39:113-123, 2023. 2.山本潤, 前田眞治,ほか:右半球損傷により眼鏡着用障害を呈した1例－眼鏡着用に関連する評価を含めた検討－. 神心理, 38: 44-53, 2022.(査読有) 3.山本潤: 失行症. 作業療法学ゴールド・マスター・テキスト（鈴木孝治,編）. 第3版, メジカルビュー社, 東京, 2022, pp.291-294. 4.山本潤:第4章 3 更衣動作(着衣),4 トイレ動作, 5 入浴動作. (編)菅原光晴, 原麻理子, 山本潤, 臨床で使える 半側空間無視への実践的アプローチ. 医学書院, 東京, 2022. pp175-195. 5.山本潤, 前田眞治,ほか:左袖通しから開始する場合に限局して出現する着衣障害.神心理, 37: 134-142,2021.(査読有) 6.山本潤, 前田眞治:開眼・閉眼でみた着衣障害の徴候.神心理, 34: 172-179, 2018.(査読有) 7.山本潤:着衣障害.やさしい高次脳機能障害辞典（種村純, 編）. 第1版,ばーそん書房,東京,2018,pp.423-424 8.山本潤, 前田眞治,ほか:着衣障害(dressing disability)の臨床徴候.神心理, 29: 212-222, 2013.(査読有) 研究分担者の早川裕子（横浜市立脳卒中・神経脊椎センター）は、これまで脳血管障害の作業療法に従事している。また臨床神経心理士であり、高次脳機能学会の幹事にも任命され、高次脳機能障害関連の活動に精力的に取り組んでいる。 石川芽衣,大森智裕,穴水幸子,ほか:左手の拮抗失行の消失とともに右手に道具の強迫的使用が出現した 1 例 症状変化の検討と環境設定アプローチ.高次脳機能研究, 42: 424-432, 2022. （査読有） 花田恵介,石橋凜太郎,早川裕子:【脳卒中の作業療法 最前線】(第 3 章)支援技術急性期から回復期の個別性を重視した介入(事例報告) 高次脳機能障害がある方への作業療法 失行 失行(道具使用の障害). 作業療法ジャーナル, 55:

	854-858, 2021. <u>早川裕子</u>:高次脳機能障害を有する人に対するリハビリテーション. 日赤リハ会誌, 34: 6-14, 2020. <u>早川裕子</u>:画像情報を作業療法に活かす(第 2 回) 脳画像情報を作業療法に活かす "見立て"のコツ. 作業療法ジャーナル, 54: 43-48, 2020. <u>早川裕子</u>:行為の障害の不思議. 神経心理学, 35: 88-96, 2019. <u>早川裕子</u>:生活に結びついた遂行機能障害のリハビリテーション. 高次脳機能研究, 39: 196-201, 2019. 研究分担者の北島栄二 (国際医療福祉大学) は、多くの競争的資金を獲得し、研究成果を実証してきた。本研究課題の遂行でも客観的手法の検討やデータ解析を行うための十分な実績を有する。また研究代表者と同一の所属機関で、柔軟かつ迅速な協議が行える。 < 学術論文・総説・その他 > 1.<u>Kitajima E</u>, et al. Actual use of and satisfaction associated with rollators and 'shopping curts' among frail elderly Japanese people using day service facilities. Disability and Rehabilitation: Assistive Technology, Apr6: 1-7, 2016. < 競争的資金 > 1.<u>北島栄二</u>,ほか. JSPS 科研費 JP22K12953, 要介護高齢者のシルバーカー及び歩行車使用時における歩行時体幹運動の比較検証. 2022-2025. 2.<u>北島栄二</u>, ほか. JSPS 科研費 JP18K12171, シルバーカーから歩行者への変更が要介護高齢者の身体活動量に及ぼす効果. 2018-2023. 3.<u>北島栄二</u>, ほか. JSPS 科研費 JP15K01463, 高齢者施設における歩行補助具の使用実態と満足度に関する調査研究. 2015-2019. 研究分担者の富永渉 (国際医療福祉大学) は、本研究課題において主に脳機能関連の専門領域での統計学的検討で必要な知識を有する。また研究代表者と同一の所属機関で、柔軟かつ迅速な協議が行える。 < 学術論文・総説・その他 > 1.<u>Wataru Tominaga</u>, et al. Asymmetric Activation of the Primary Motor Cortex during Observation of a Mirror Reflection of a Hand. Neurosci. Res, 68: E260-E261, 2010. 2.<u>Wataru Tominaga</u>, et al. A mirror reflection of a hand modulates stimulus-induced 20-Hz activity. Neurosci. Res. , 65: S100-S100, 2009. < 競争的資金 > 1.<u>富永渉</u>. JSPS 科研費 JP18K18429, Parkinson 病・脳卒中患者の人混みでの歩
--	--

	行を改善する練習用アプリの開発. 2018-2022. 2.新井田孝裕,富永渉,ほか. JSPS 科研費 JP21H03856, 高齢者の視機能の動特性と身体バランスの検討. 2021-2024. 研究分担者の前田眞治（国際医療福祉大学クリニック）は、研究代表者のこれまでの研究に共同で取り組んできた。高次脳機能障害だけでなくリハビリテーション全般の視点から本研究課題に取り組むための十分な実績を有する。安全管理・推進のためのガイドライン策定委員会の委員長として現行のリハビリテーションのガイドラインを策定した。 ＜学術論文・総説・その他＞ 1. <u>前田眞治</u>. 半側空間無視. 高次脳機能研, 28: 214-223, 2008. 2. <u>前田眞治</u>, ほか. 脳梁出血例にみる意図的行動の制御. 失語症研究, 15: 262-269, 1995. ＜競争的資金＞ 1.<u>前田眞治</u>,ほか: リハビリテーション医療におけるリスクマネジメントの考え方と安全管理マニュアルの作成に向けての提言. 厚生労働科学研究費補助金 医療技術評価総合研究事業. 医療の質及び医療安全体制の確保に関する研究—医療事故を防止するための対策の効果的な実施および評価に関する研究. 2005-2006. 2.<u>前田眞治</u>: 脳卒中とパーキンソン患者およびその在宅介護者のうつ傾向とやる気. 平成 12 年度厚生科学研究費補助金(長寿科学総合研究)研究成果報告書, 高齢神経疾患のリハビリテーションのあり方. 2001-2002.															
研究に要する経費	合計 ￥ 144,876 内訳（摘要及び金額） ※対象施設 184 施設＋予備 16 の合計 200 施設分で申請を算出している。 ※<u>いずれも本研究を遂行する上で必要最小限を計上しており、妥当な研究経費</u>と考えている。 <table border="1" data-bbox="435 1608 1351 1993"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>摘要</th> <th>金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3">通信運搬費</td> </tr> <tr> <td>封筒代</td> <td> 依頼状・アンケートアクセス先の送付（184 施設分） 【購入品情報】 ムトウユニパック ケント紙封筒 角 2（A4）500 枚、ASKUL 申込番号:3010092 ￥6,320 </td> <td>￥6,320</td> </tr> <tr> <td>切手代</td> <td> 依頼状・アンケートアクセス先の送付（184 施設分） 1 通 ￥94 × （184 施設＋予備 16）＝ ￥18,800 </td> <td>￥18,800</td> </tr> <tr> <td colspan="3">印刷製本費</td> </tr> </tbody> </table>	項目	摘要	金額	通信運搬費			封筒代	依頼状・アンケートアクセス先の送付（184 施設分） 【購入品情報】 ムトウユニパック ケント紙封筒 角 2（A4）500 枚、ASKUL 申込番号:3010092 ￥6,320	￥6,320	切手代	依頼状・アンケートアクセス先の送付（184 施設分） 1 通 ￥94 × （184 施設＋予備 16）＝ ￥18,800	￥18,800	印刷製本費		
項目	摘要	金額														
通信運搬費																
封筒代	依頼状・アンケートアクセス先の送付（184 施設分） 【購入品情報】 ムトウユニパック ケント紙封筒 角 2（A4）500 枚、ASKUL 申込番号:3010092 ￥6,320	￥6,320														
切手代	依頼状・アンケートアクセス先の送付（184 施設分） 1 通 ￥94 × （184 施設＋予備 16）＝ ￥18,800	￥18,800														
印刷製本費																

	書類印刷代	依頼状・アンケートアクセス先の印刷 1 枚 ¥10 (白黒) × 8 枚 × (184 施設 + 予備 16) = ¥16,000	¥16,000
	消耗品費		
	コピー用紙	依頼状・アンケートアクセス先の送付 (184 施設分) (1 セット 8 枚 × (184 施設 + 予備 16) = 1,600 枚) 【購入品情報】コピー用紙マルチペーパー スーパーホワイト + A4 1 セット (2000 枚)、ASKUL 申込番号: EK19765 ¥1,716	¥1,716
	旅費交通費		
	学会参加	参加学会: 第 59 回日本作業療法学会 (開催:高松) 会期: 2025 年 11 月 7~9 日 旅費 11/7 (往路) ¥18,820、11/9 (復路) ¥19,020 ※詳細の交通経路と金額は、申請書末尾に記す 宿泊費 ¥7,000 × 2 泊 (11/7-9) = ¥14,000	¥51,840
	研究打合せ	〈早川裕子:横浜市脳卒中・神経脊椎センター〉 国際医療福祉大学 小田原キャンパスー脳卒中・神経脊椎センタ ー (東海道線・根岸線・横浜市営バス) ¥1,210 × 2 (往復) × 10 回 = ¥24,200 〈前田眞治:国際医療福祉大学クリニック〉 ※前田眞治と代表者は関連施設である赤坂キャンパスが中間地 点のため、打合せ場所として利用する 国際医療福祉大学 小田原キャンパスー国際医療福祉大学大学院 (赤坂キャンパス) (小田急線・千代田線) ¥650 × 2 (往復) × 10 回 = ¥13,000	¥37,200
	負担金		
	学会参加	参加学会: 第 59 回日本作業療法学会 (開催:高松) 参加費 ¥13,000 (事前参加登録)	¥13,000
※内訳は、勘定項目 (p.3 の表を参照) ごとに具体的に記載する。 ※耐用年数 1 年以上のもので、取得価格が 3 万円以上のものについては、見積書、カタログ等を添付すること。			
他の研究事業等への申請状況 (当該年度)	特になし		
研究費補助を受けた過去の実績 (過去 3 年間)	特になし		
補助金等の返還	特になし		

を命じられた過去 の事業	
-----------------	--

＜別紙＞研究に要する経費（旅費交通費：学会参加分）

※切符利用時の運賃で算出

11/ 7(木) 海老名 → 高松 ¥18,820

6:00 発 海老名 相鉄本線特急(東急線直通浦和美園行) 運賃：¥400

6:22 発 西谷 相鉄新横浜線特急(東急線直通浦和美園行)

6:51 発 新横浜 のぞみ 5 号(N700 系)(博多行)

運賃：高松まで 11,320 円、指定席：岡山まで 7,100 円

9:54 発 岡山 快速マリンライナー 19 号(高松行)、自由席

10:51 着 高松

<https://tiny.jorudan.co.jp/1p5tLPd>

11/10(日) 高松 → 海老名 ¥19,020

17:10 発 高松 快速マリンライナー 50 号(岡山行)

運賃：新横浜まで 11,320 円 自由席

18:20 発 岡山 のぞみ 50 号(N700S 系)(東京行)

指定席：新横浜まで 7,300 円

21:27 発 新横浜 相鉄新横浜線各停(湘南台行) 運賃：¥400

21:34 発 西谷 相鉄本線快速(海老名行)

22:00 着 海老名

<https://tiny.jorudan.co.jp/1p5tSFj>

ジョルダン

乗換案内 - ジョルダン

ジョルダン 乗換案内：全国の電車、飛行機、バス、フェリーの時刻表・運賃・乗換案内・路線図・定期代・18 きっぷなどが調べられます。スポットや住所までの検索も可能。始発・終電検索、運行情報、構内図、出口案内、地図も提供中。

ジョルダン

乗換案内 - ジョルダン

ジョルダン 乗換案内：全国の電車、飛行機、バス、フェリーの時刻表・運賃・乗換案内・路線図・定期代・18 きっぷなどが調べられます。スポットや住所までの検索も可能。始発・終電検索、運行情報、構内図、出口案内、地図も提供中。